



やってみよう！
楽しもう♪



カゴづくり

弥生の暮らしとカゴ



▲青谷上寺地出土のカゴ
(写真提供：鳥取県埋蔵文化財センター)



▲青谷上寺地出土の復元カゴ
(写真提供：鳥取県埋蔵文化財センター)



▲福岡遺跡（米子市淀江町）
から出土した弥生時代のカゴ

鳥取県内の遺跡では、
青谷上寺地遺跡（鳥取市）や福岡遺跡（米子市）
等で弥生時代のカゴが出土しています。植物製のひごやツルで作られたカゴは、土の中で壊れたり、腐ることが多く、遺跡から出土することがめずらしいです。青谷上寺地遺跡から出土した写真のカゴ（弥生中期）は、マタタビのツルから作られたひごで編まれています。

福岡遺跡のカゴ（写真左下）は淀江平野の中央部分から、弥生時代前期の土器と共に出土しています。底部径12.2～13cm、胴部径19.1cm、胴部高さ5.1cmあり、材料はツル植物（アケビ属）で編まれています。

カゴづくりに使われるツル植物

写真番号	植物名	・科、ツルの特徴、使い方など
1・2	ノダフジ	・マメ科落葉、やや灰色質感あり、太くなくても曲がっていても柔らかく編みやすい。
3・4	サルナシ	・マタタビ科落葉、灰白色ざらざら肌、丈夫で腐りにくい、割って組む。木質化の材はもち手などに。
5・6	クズ	・マメ科多年草、灰白色質感は軽い、長く伸びる。身近にある一番親しみやすい材。
7・8	アオツツラフジ	・ツツラフジ科落葉、節が低くまっすぐに伸び、乾くと青から黒に変わる。山陰地方に植生しやすい。
9・10	ツルウメモドキ	・ニシキギ科落葉、紫褐色皮目ありまっすぐに伸びる。葉・実ともにいかにして楽しむ。
11・12	キツタ	・ウコギ科常緑、乾燥するとツルのやせ方が著しい。太いものほど粘りあり。
13	ムベ	・アケビ科常緑、若いツルはみどりがかかった色、乾燥ツルは灰黒色。長く伸びたくても柔らかい。
14・15	アケビ	・アケビ科落葉、5枚の小葉、暗褐色。ミツバアケビよりやや太め粘り、強度あり。
16・17	テイカカズラ	・キョウチクトウ科常緑、深みのある灰色、細くしなやか粘りあり、直径8cmにも太くなることもある。
18・19	ヘクソカズラ	・アカネ科多年草、褐茶、長くのびる細くて丈夫なツル。使い方：編む、結ぶ、組む。
20・21	サネカズラ	・マツバサ科常緑、粘り、質感あり。風情がある材、2cmの太さにまで達することがある。
22・23	サンカクツル	・ブドウ科落葉、古くなると茶褐色、細くクキクキ伸び長い、野趣ある風情を楽しむ。
24・25	スイカズラ	・スイカズラ科常緑、粘りあり柔らか、個性あるツル、表皮をはいで使うこともあり。
26・27	ミツバアケビ	・アケビ科落葉、3枚の小葉、紅茶褐色。節も低く細く丈夫、精巧な籠を編むことができる。
28・29	カニクサ	・フサンダ科のシダ植物温暖な場所では常緑、細くて長く10mにも伸びる、編んだり、結んだりを楽しむ。
30・31	サルトリイバラ	・ユリ科落葉、黄緑の色系。ツルツルクキクキしていて固い。巻き髭、球形紅色の実をいかにして楽しむ。
32・33	ノブドウ	・ブドウ科落葉、茎は紫褐色。長くのびてジグザグに曲がる。個性的な風情を楽しむ。
34	エビツル	・ブドウ科落葉、帯赤褐色の綿毛に覆われ細くジグザグ、巻き髭とともにいかに楽しむ。

むきばんだ史跡公園で見られるカゴづくりに利用できるツル植物

遺跡内での採集はできません。



スイカズラ

25



24



ミツバアケビ

26



27



カニクサ

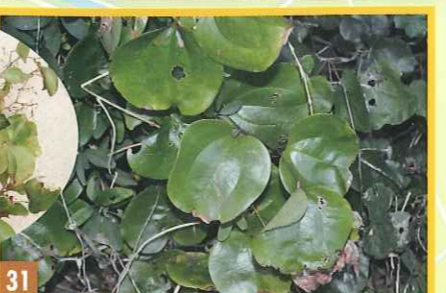
28



29



30



サルトリイバラ

31



ノブドウ

32



1



ノダフジ

2

サンカクツル

23



22



20

サネカズラ

19



18

ヘクソカズラ



17

テイカカズラ

16



14

アケビ

15



12

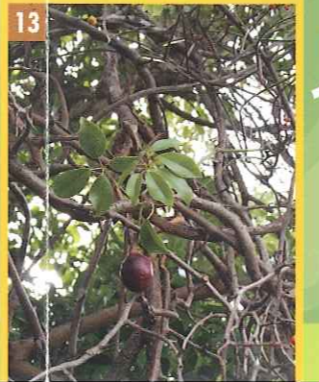
キツタ

11



ムベ

13



ツルウメモドキ



9

サルナシ

4



クズ

5



6



アオツツラフジ



8



むきばんだ遺跡ってどんな遺跡？



▲復元された弥生のムラ（妻木山地区）

中国地方の最高峰、「大山」のふもとに、古くから親しまれてきた里山「晩田山」があります。妻木晩田遺跡はこの里山にあって、1995年から行われてきた発掘調査で竪穴住居跡450棟、掘立柱建物跡500棟以上などが見つかったわが国最大級を誇る弥生時代のムラのあとです。

福岡遺跡（米子市淀江町）
出土のカゴの形

弥生人のカゴを編んでみよう！

身近なツル植物で
チャレンジ
してみよう！

ツル採集時期は？

ツル採集時期は秋、紅葉のはじまる前後くらいがベスト。ツルに粘りあり、肌もきれいです。採集するときは林の持ち主にひとこえかけ、樹を傷つけないようにマナーを守りましょう！

ツルの下準備

採集したツルは、横枝や葉を落とし、太めと細めのツルを分けて束ね、風通しのよい日陰で乾燥させ保存します。カゴづくりを始める前日には水に浸け、やわらかく戻します。

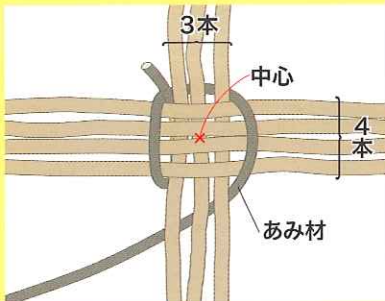
さあ、いよいよカゴ編みです。

●用意するもの●

- 芯材（骨組み用）
太めのしっかりした材：長さ80cmのもの7本
- あみ材
細めのやわらかそうな材：長さ150cm～180cmのもの3～4本

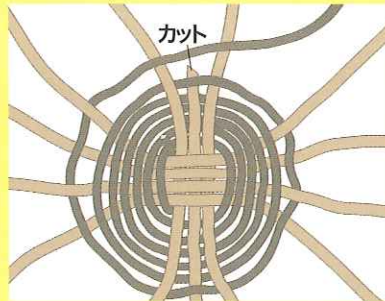
道具は
メジャーと
はさみだけで
OK！

1 底を組む



図のように中心で十字になるように組み、あみ材をしっかり締めるながら5回ほど回す。

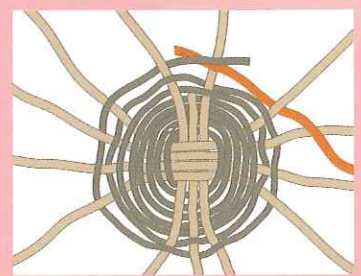
2 底面を編む



5回ほど回したら、芯材を1本カットし、あみ材を交互にかけて編み進める。あみに大きなすきまがあかないように注意しましょう。

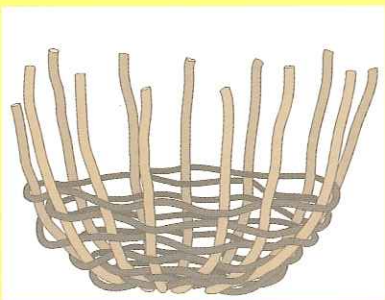
あみ材をつなぐときは

POINT



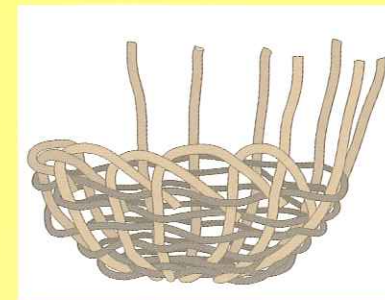
新しいあみ材のツルが、組んでいるツルの下になるように芯の上で交差させてつなぐ。

3 立ち上げて編む



手で芯材を底から立ち上げ、好みの高さまで側面を編み続ける。

4 縁を止める



編み終わりは、芯材を隣りの芯材の外側から内側に入れて止める。



表紙のように
持ち手をつけ
ても素敵です。

むきばんだ カゴづくりサークル

私たちは、月に1回集まり、楽しく創作活動を行っています。入会等の問い合わせは、むきばんだ史跡公園までお申し出下さい。